度重なる聞き返しや聞き間違いは加齢性難聴の証でもある

日本血管内治療学会　名誉理事長
ドイツ外科学会　名誉会員
ドイツ血管外科学会　名誉会員　**岡田 昌義**

年を重ねることにより、誰でもが少しずつ聞こえが低下することがあるが、これを加齢性難聴と呼ぶことがある。

これは難聴という言葉に対して、全く聞こえないという状態を想像するかも知れないが、最近聞き返しや聞き間違いが増加したとか、テレビのボリュームが大きくなったということが、軽度から中等度難聴の症状であることが少なくない。

加齢性難聴による影響はコミュニケーションが取りにくくなるだけでなく、程度が軽度や中程度であっても適切な管理が行われていないことで、就業率低下や社会的孤立といった社会的な問題を引き起こしたり、認知症やうつ病といった病気を発生させるリスクとなったりすることが明らかになってきた。

例えば、聞こえずらいなと感じたら、まずは耳鼻咽喉科を受診して聴力検査を受けることである。音は聞こえるが、言葉が聞き取りにくいという場合には、「語音聴力検査」と呼ばれる検査も行うことができる。

対処法の方針をしっかりと医師と相談するようにしたいものである。聞こえづらさにより生活の中で不便を感じる場合には、補聴器を使用するという選択肢もある。この場合には、耳鼻咽喉科医に相談して、補聴器に関する助言を受けてから、補聴器販売店を訪れることである。

※語音聴力検査：検査ブースでヘッドホンを付け、「ア」や「い」等、一文字ずつ聞こえた語をマイクに向かって答え、どの程度の音の大きさで正しく聞き取れたか正解率を調べる。（検査は片耳ずつ行う）